１０. 陸軍水道揚水ポンプ場

フェイスブック掲載日 2021/8/11

写真の A 点が「宇治火薬製造所分工場の入船口又は荷揚場」で、B 点が「陸軍水道揚水ポンプ場」です。また、C 点は【写真１】です。

従って、昨日の以下の文章には誤りがあることをお伝えし、お詫び致します。

京都市伏見区にある宇治火薬製造所分工場の入船口、もしくは荷揚場はこのあたりかと、地図を見ながら宇治川岸に降りてみると、とても異様な光景に目を疑いました。写真で分かるでしょうか。水中に構造物の基礎の様なものが残っているのです。宇治川筋一体は戦後、護岸工事が施されており、このような姿で残っていることはとても希少なことと思います。私は、位置からすればやはり、宇治火薬製造所分工場の入船口、もしくは荷揚場ではないかと思っています。【写真１】川原付近を調べると、写真のようなコンクリート製の物体がいくつも転がっています。何に使われていたのか、新たな疑問が生まれました。【写真２】

さて、川岸を登り、東側には【写真３】のような古めかしい設備を持った施設があります。ここは京都市上下水道局宇治川取水ポンプ場です。地図を見れば、宇治火薬製造所分工場の北西側に当たります。「古めかしい設備」が火薬製造のための「取水ポンプ」ではないか、と当たりを付け、さっそく図書館へ。

「京都の『戦争遺跡』をめぐる」【新装版】（つむぎ出版　平和のための京都の戦争展実行委員会編　池田一郎･鈴木哲也著）に予想もしなかった情報がありました。「陸軍水道揚水ポンプ場」のタイトルで、以下の説明がありました。

「京都市上下水道局宇治川取水ポンプ場」は陸軍時代、ここで汲み上げられた水はパイプを通り、桃山南口駅を北に向かい、六地蔵を経由し、山の上にある伏見城の外堀跡を利用した貯水池(現：北堀公園)へと貯められました。

※私が高校生のころ、この貯水池によく遊びに行きました。

1905 年（明治 38 年）に陸軍第 16 師団の設置が決まった時に、伏見各地に設けられる軍施設への水道設備はなく、ここに貯水池を設けた上で伏見城の堀も利用しつつ宇治川から水をポンプで揚げ、各施設に送水していました。

また、軍事施設でありながら京都市との協定により民間にも水を供給した珍しい施設でもありました。

「宇治火薬製造所分工場」と「陸軍水道揚水ポンプ場」との関連はまだ不明ですが、双方ともほぼ同じ場所にあり、ポンプ場は分工場の一部分です。また、陸軍第 16 師団の設置が決まった時期と宇治火薬製造所分工場が設置された時期は、いずれも日露戦争に対応するためであり、同時期に設置されています。宇治川岸にある構造物跡はやはり軍事施設の跡ではないかと確信を深めています。

＜訂正と謝罪＞2021.08.12

昨日、私の早とちりで、アップした内容は間違っておりました。本日、落ち着いて地図を見直したところ、新しく付けました地図のとおり、「宇治火薬製造所分工場の入船口又は荷揚場」と「陸軍水道揚水ポンプ場」はまったく別の場所にあることが分かりました。

【写真1】

【写真2】

【写真3】